

「赤」には要注意

## 南会津 実川赤安沢トヤマ沢

軟弱でも良い、楽しくあれ、ということで一度も入ったことのない檜枝岐実川流域で近そうな赤安沢を選んだ。後で考えると、ちょっと選択をミスったのである。

9月29日（土）：晴

前夜、東北道通行時に思わずスピードを下げるようなものすごい雨に見舞われ心配したが、穏やかな朝となった。昨夜、以前使っていた仮眠所を探したがたくさんの人で埋まっていた。よく考えると溪流釣りの今シーズン最後の週末のために釣り師が多いということに気がついた。

林道を走り、矢櫃橋から歩き、出合先の小さな支沢から実川本流におりる。水量が多い。出合も「えっ」と驚く程の水量だ、水も少し濁っている。

そのうち収まるだろうと楽観的に入渓する。大岩が続き、赤安小沢を過ぎるとすぐにV字滝だ。ここは左岸から簡単に巻ける。早くもキノコ目になっている人がいる。全体的にはゴーロっぽい溪相だが適度に淵や小滝がありアキさせない。まあゆったり山行には適当だろう。ちょっとゴルジュっぽい地形では、夏ではないので突っ込まずに左から高巻く、降り口が少し急だがズリズリでも怪我しないだろう。程よい水のたまり場で竿を出してみるが全然アタリがない。そう言えばあれだけいた釣り師に遭わないのも不思議だ。

テン場を探そうとはやる気持ちを抑えて予定通りの二俣を目指す。しかし、その直前に明るくて平らで水の清らかな支沢付きA級物件が見つかってしまい、「ここしかない」とザックを降ろした。

泊まりの支度をした後は釣りタイム、今シーズン最後と上下流に別れて飛び出す、とうにも当たらない。誰も恵まれずに戻り、気を取り直して宴会に突入。今回は竹澤さんがツマミにリキを入れているという。大きなえびせんに味噌やソース、生卵を焼いてクレープのように折り曲げて食べる不思議な（ゴメン、名前を忘れた）つまみは気合いを感じられた。名古屋風という。いつものように、というとそれまでだが、やはり沢で焚き火を囲んでの宴会は格別のものがある。「山は良い！」はやはり名言と言わざるを得ない。

9月30日（日）：晴

予定では周遊的に赤安田代から赤安小沢を下ろうと思っていたが、荷物を置いて軽快に往復したいという誘惑に駆られて変更することに。

二俣を過ぎると粘土のような土が現れる。沢もガレが激しく赤い岩も多い。どうも水が濁っているのは雨が多かったせいではなく、この粘土状の土のためらしい。そのために魚がいないのだろう。よく考えると沢に「赤」が付くのは鉄分が多くて石が赤く、魚がいない沢が多いのだ。それをすっかり忘れていた。

沢を詰めると急に傾斜が緩くなり、目の前に湿原が現れた。思ったより広い。池塘がないものの

【日程】

2016年9月24日（土）  
～9月25日（日）

【メンバー】

古野（L）、鈴木、福永、竹澤

【グレード】 1級上

【地形図】 燧ヶ岳

【記】 古野

すっきりしていて気持ちが良い。思わず両手を挙げてバンザイのポーズになる。

一休みの後、下山にかかる。滝はないので苦労はしないで天場に戻る。同沢下降であるが途中から左右の段丘に踏み跡らしきモノが見え始め、そこを大部分辿ることが出来た。本流に出会ったところで鈴木さんが最後のあがきで竿を出す。沢の女神のお情けはなかった。

途中林道横でキノコや山葡萄にキャッキョッと言いながら戻った。

そば屋で♨として秋の気配を見せ始めた檜枝岐を後にした。企画者としては釣れない沢を選んでしまったことに悔いが残るが、沢が楽しかったという思い出がやがて打ち勝つだろう。

### 【行程】

9/24 矢櫃橋出発 (9:15) ~ 赤安沢入渓 (10:25) ~ BP (13:20)

9/25 BC (6:15) ~ 赤安田代 (8:00/30) ~ BC (9:20/55) ~ 林道 (12:00) ~ 矢櫃橋 (13:00)



V字の滝



赤安田代

